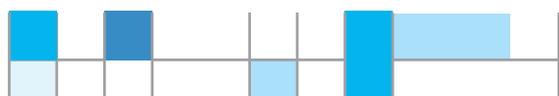
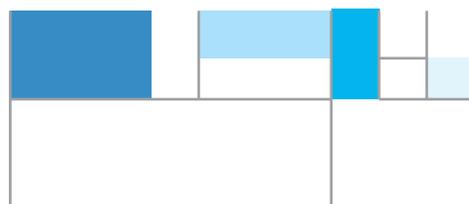


第20期 報告書

2021年4月1日—2022年3月31日

株主のみなさまへ

THE BIOTECHNOLOGY COMPANY™



タカラバイオ株式会社

証券コード：4974

遺伝子治療などの革新的な バイオ技術の開発を通じて、 人々の健康に貢献します

株主・投資家の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第20期の事業概況をご報告させていただきます。

代表取締役社長 仲尾 功一



第20期の業績について

2021年度(第20期)の当社グループは、2025年度を最終年度とする6カ年の「長期経営構想2025」および2022年度を最終年度とする3カ年の「中期経営計画2022」のもと、試薬・機器事業とCDMO事業を通じ、バイオ創薬基盤技術開発を進め、新モダリティを継続的に創出する創薬企業を目指した取り組みを推進しました。また、新型コロナウイルス検査関連製品の安定的な供給や、ワクチンを含む再生医療等製品の製造体制整備等に積極的に取り組みました。

その結果、売上高は、67,699百万円(前期比46.9%増)と増収となり、原価率も改善したことから、売上原価は18,488百万円(同30.1%増)となりましたので、売上総利益は、49,211百万円(同54.4%増)となりました。販売費及び一般管理費は、人件費および研究開発費等が増加し、20,309百万円(同13.3%増)となり、営業利益は、28,902百万円(同107.1%増)と増益となりました。

営業利益の増益に伴い、経常利益は、28,459百万円(同101.0%増)、税金等調整前当期純利益は、27,532

■第20期 売上高・営業利益・研究開発費・ROE

売上高 **676億円** 前期比 **47%** ↑

営業利益 **289億円** 前期比 **107%** ↑

研究開発費 **61億円** 前期比 **10%** ↑

自己資本利益率(ROE) **23.3%** 前期比 **9.7ポイント** ↑

百万円(同103.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は、19,849百万円(同107.9%増)とそれぞれ増益となりました。

売上高をはじめ、すべての利益項目で過去最高、営業利益は13期連続増益を達成しました。

今後の見通しについて

2022年度におきましては、売上高は、新型コロナウイルス検査関連試薬の需要減を予想しており、全体では減収となる見通しです。また、販売費及び一般管理費は、人件費、研究開発費等を増加させる計画のため、営業利益ならびに経常利益は前期から減益となる見通しです。

この結果、売上高55,300百万円、営業利益15,000百万円、経常利益15,100百万円、親会社株主に帰属する当期純利益10,600百万円を予想しています。

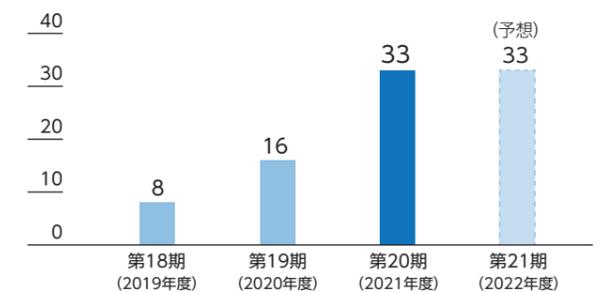
配当について

当社は、バイオ産業支援・遺伝子医療の各事業における研究開発活動を積極的に実施していくため内部留保の充実に意を用いつつ、株主の皆様への利益還元についても重要な経営課題と位置づけ、経営成績および財政状態を総合的に勘案して利益還元を実施していくことを基本方針としています。具体的には、連結財務諸表における特別損益を

加味せずに算出された想定当期純利益の20%程度を目途として利益配分を行う方針です。この方針に基づき2021年度の期末配当金は、1株当たり33円と、前期の16円から大幅に増配しました。

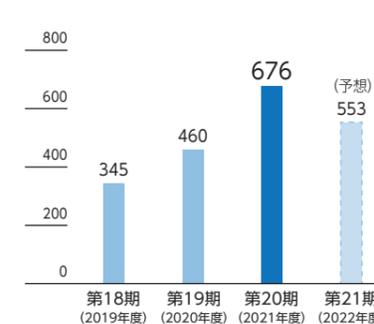
また、2022年度以降については、上記の想定当期純利益の30%台後半を目途とするように方針を変更しました。これに伴い、2022年度期末配当は1株当たり33円と予想しています。

■1株当たりの配当額(円)

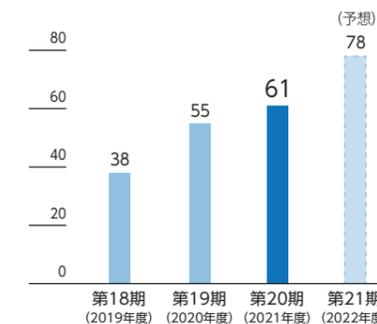


連結財務ハイライト

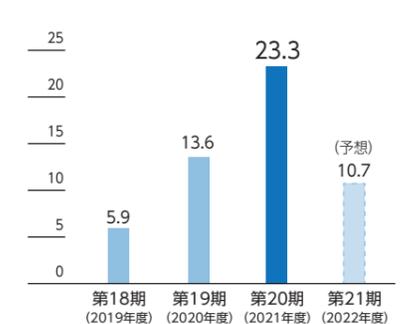
売上高(億円)



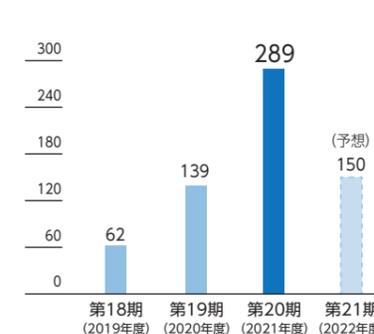
研究開発費(億円)



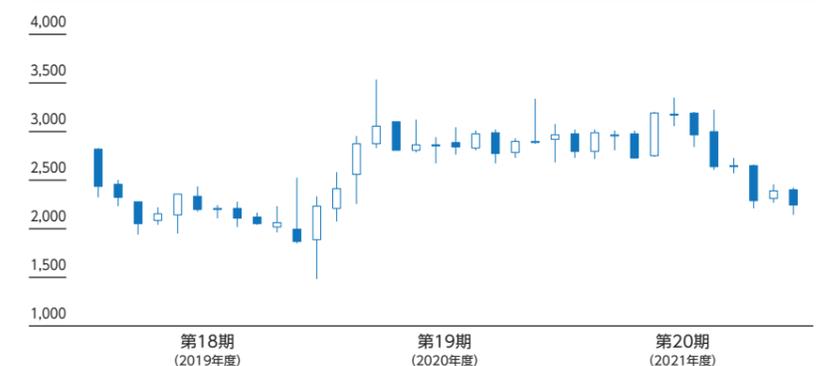
ROE(%)



営業利益(億円)



株価推移(円)



事業の概要

研究支援と受託で、世界のバイオ研究者に高品質な製品・サービスを提供しています。2021年度は、新型コロナウイルス検査関連試薬をはじめ、一般研究用試薬、受託が伸び、売上高は676億円と過去最高となりました。

試薬

売上高は一般研究用試薬が290億円(前期221億円)、新型コロナウイルス検査関連試薬が256億円(前期130億円)となり、ともに大幅に伸びました。特に一般研究用試薬は、前期はコロナ禍で低迷しましたが、当期はコロナ禍前に策定した目標の水準を回復し、過去最高売上となりました。試薬全体では、546億500万円、前期比194億1,600万円(55.2%)の増収となりました。

機器

新型コロナウイルス検査向けPCR装置の需要が減少したため減収となりました。売上高は、15億1,800万円となり、前期比▲2億800万円(▲12.1%)の減収となりました。

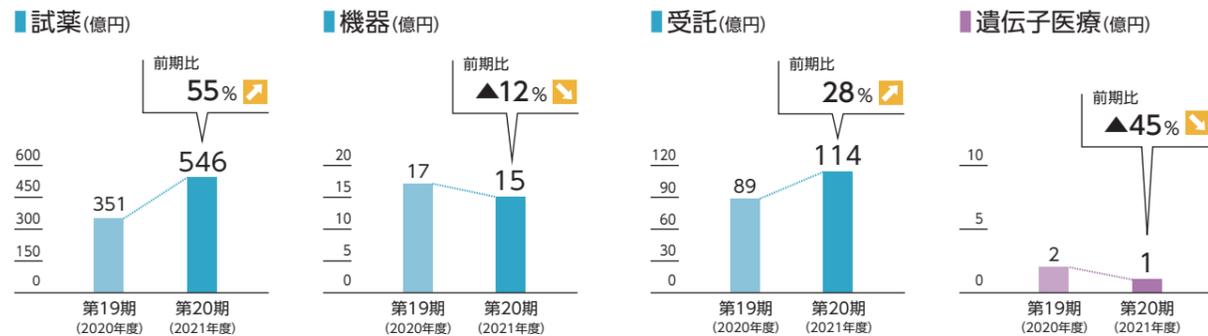
受託

製薬企業を中心に遺伝子・細胞治療薬の開発が活発化しており、再生医療等製品関連受託が好調でした。また、遺伝子解析・検査関連受託では、大型ゲノムプロジェクトが増収に貢献しました。さらには、新型コロナウイルスワクチン関連受託も加わり、受託全体では114億2,600万円、前期比25億2,500万円(28.4%)の増収となり、初めて売上高100億円を突破しました。

遺伝子医療

臨床試験用製品等の売上減少に伴い減収となり、売上高は1億4,800万円、前期比▲1億1,900万円(▲44.5%)となりました。

第20期連結業績(売上高)



NEWS 1

mRNAワクチンの開発用試薬を発売

タカラバイオは、メッセンジャーRNA(以下、mRNA)合成を効率的に行うためのmRNAワクチン開発用試薬[Takara IVTpro™ mRNA Synthesis System]を2022年3月より発売しました。

mRNAは、私たちの体の中では、遺伝子情報をタンパク質に変換する機能を持つ重要な分子です。最近では、この性質を応用して、新型コロナウイルスに対するワクチンとして利用されました。製薬企業やバイオベンチャーなどでは、他の感染症のワクチンやがんなどの治療薬としての開発も進んでおり、開発の競争が激しくなっています。

本試薬は、このようなmRNAを使用したワクチンや治療薬の開発者向けの製品です。mRNA合成の際の鋳型となるDNAを迅速・簡便に作製する試薬のほか、鋳型DNAからmRNAを合成する試薬から構成されます。mRNA合成の反応条件を最



Takara IVTpro™ mRNA Synthesis System

適化しているため、当社従来製品に比較して約6倍と、mRNAを高収量に合成できます。また、合成したmRNAはワクチンや治療薬などの各種研究に使用しやすいよう、mRNAの構造や精製方法に工夫を加えています。

今後も、遺伝子工学、細胞工学研究用製品の豊富な開発経験で培った技術・ノウハウを活用し、mRNAワクチン開発を強力にサポートしていきます。

TOPICS 多様なモダリティへの対応とサプライチェーン整備を目的とした遺伝子・細胞プロセッシングセンターの実装化

タカラバイオは、滋賀県草津市の本社地区内の遺伝子・細胞プロセッシングセンター1号棟(2014年稼働、床面積6,700㎡)、2号棟(2020年稼働、床面積14,500㎡)において、(1)遺伝子治療薬などの再生医療等製品やワクチンなど、多様なモダリティ(治療手段)に柔軟に対応可能な製造施設、(2)PCR検査試薬を含む重要試薬の国内サプライチェーン整備に向けた製造施設の実装化を進めています。

特に、遺伝子・細胞プロセッシングセンター2号棟は、2020年の稼働時に全体の約1/3を将来の多様なニーズに機動的に対応可能な拡張エリアとしていましたが、これらの方針に基づき、完全実装化の内容を決定しました。今後、整備が完了した施設から順次稼働し、2022年度中には、当初の計画を繰り上げて完全に稼働する予定です。

(1)多様なモダリティへの対応

バイオテクノロジーの発展とともに多様なモダリティの有用性が証明され、製薬企業やバイオベンチャーが早期の商業化を目指して開発を進めています。

遺伝子治療薬、新型コロナウイルス感染症予防ワクチン、製薬企業やバイオベンチャーが開発を進める遺伝子治療薬などの再生医療等製品の開発・製造を支援するCDMOとして、生産設備の整備を進めています。整備にあたっては自己資金に加え、厚生労働省「ワクチン生産体制等緊急整備事業」の支援を受けています。当該設備はパンデミック時にはワクチン製造を優先し、平時には当社事業などに臨機応変に利用可能(デュアルユース)です。



2,000L 微生物培養槽

(2)PCR検出試薬や試薬類のサプライチェーン整備

遺伝子・細胞プロセッシングセンター2号棟の拡張エリアの一部(約2,400㎡)に、新型コロナウイルスPCR検査試薬(体外診断用医薬品を含む)や重要試薬などの製造・保管・出荷用に、培養装置・タンパク質精製装置・自動梱包装置など一連の設備整備が完了し、2021年10月より業務を開始しました。施設整備は、経済産業省「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業」に採択されており、これを活用しました。整備後の製造能力は、PCR検査に換算して、最大800万反応/月となり、パンデミック時のPCR検査など試薬類の国内サプライチェーンの確保に対応可能です。



自動充填装置

NEWS 2

豚熱およびアフリカ豚熱の同時診断が可能な新しい遺伝子検査法を開発

タカラバイオは、農研機構動物衛生研究部門と共同で、検体からウイルス核酸を精製することなく、豚熱ウイルスとアフリカ豚熱ウイルスの遺伝子を簡便かつ同時に検出可能なリアルタイムPCRを用いた検査法を開発し、2021年11月1日に本検査法に対応するPCR試薬を発売しました。

アフリカ豚熱(ASF)は、致死性が極めて高く、未だ治療法や予防法のない豚やイノシシのウイルス感染症です。これまで国内での発生はありませんが、現在、地球的規模で猛威をふるっており、東アジアや東南アジアなど近隣の地域でも続発していることから、その侵入には厳重な警戒が必要です。

一方、2018年に26年ぶりに国内で発生した豚熱(CSF)は、現在も国内の養豚場で発生が相次ぐとともに、野生イノシシでの感染も拡大しています。両疾病は家畜伝染病予防法で指定される重要疾病ですが、臨床症状が酷似することから、

その診断には遺伝子検査が必要になります。両疾病の防疫措置を確実かつ効果的に実施するには、迅速かつ実用性に優れた遺伝子検査法の開発・普及が必要です。

本PCR検査試薬は、今後、豚熱、アフリカ豚熱の迅速な発見や早期の防疫措置の発動に役立つものと期待されます。



豚熱ウイルス・アフリカ豚熱ウイルス検出試薬

連結財務状況

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 2021年3月31日現在	当連結会計年度 2022年3月31日現在	科目	前連結会計年度 2021年3月31日現在	当連結会計年度 2022年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	49,115	68,141	流動負債	13,191	17,380
現金及び預金	25,993	23,633	支払手形及び買掛金	2,077	1,959
受取手形及び売掛金	12,626	—	リース債務	138	137
受取手形	—	466	未払金	2,911	4,443
電子記録債権	—	1,231	未払法人税等	3,146	5,498
売掛金	—	16,147	賞与引当金	739	923
① 棚卸資産	9,184	24,066	その他	4,177	4,418
その他	1,352	2,637	固定負債	2,256	2,266
貸倒引当金	△41	△40	リース債務	1,003	910
固定資産	40,635	47,571	繰延税金負債	—	198
有形固定資産	29,766	36,395	退職給付に係る負債	800	788
② 建物及び構築物	10,522	17,615	その他	452	370
機械装置及び運搬具	3,297	3,479	負債合計	15,448	19,647
工具、器具及び備品	2,531	4,014	純資産の部		
土地	8,143	8,413	株主資本	74,945	92,868
リース資産	684	631	資本金	14,965	14,965
建設仮勘定	3,756	1,519	資本剰余金	32,893	32,893
その他	830	723	利益剰余金	27,085	45,009
無形固定資産	9,373	9,159	その他の包括利益累計額	△763	3,004
のれん	6,149	6,309	為替換算調整勘定	△529	3,208
技術資産	1,953	1,523	退職給付に係る調整累計額	△234	△204
その他	1,270	1,326	非支配株主持分	120	191
投資その他の資産	1,495	2,015	純資産合計	74,302	96,064
繰延税金資産	1,075	1,539	負債純資産合計	89,750	115,712
退職給付に係る資産	114	123			
その他	305	352			
資産合計	89,750	115,712			

連結貸借対照表のPOINT ① 棚卸資産・・・製品の安定供給のために在庫を例年より多く持つようになったことによる増加です。
② 建物及び構築物・・・Takara Bio USA, Inc.の新事業所用建物内装工事等にかかるものの増加です。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 2020年4月1日から 2021年3月31日まで	当連結会計年度 2021年4月1日から 2022年3月31日まで	科目	前連結会計年度 2020年4月1日から 2021年3月31日まで	当連結会計年度 2021年4月1日から 2022年3月31日まで
① 売上高	46,086	67,699	特別利益	518	4,476
売上原価	14,214	18,488	固定資産売却益	1	6
売上総利益	31,872	49,211	② 国庫補助金	517	4,470
販売費及び一般管理費	17,919	20,309	特別損失	1,125	5,403
営業利益	13,952	28,902	固定資産除売却損	99	174
営業外収益	308	357	② 固定資産圧縮損	517	4,470
受取利息	113	122	棚卸資産評価損	—	589
為替差益	2	—	減損損失	—	168
不動産賃貸料	128	141	事業整理損	458	—
その他	63	94	その他	50	—
営業外費用	101	800	税金等調整前当期純利益	13,552	27,532
支払利息	24	23	法人税、住民税及び事業税	4,297	7,901
為替差損	—	706	法人税等調整額	△326	△277
不動産賃貸費用	54	61	法人税等合計	3,971	7,624
その他	21	8	当期純利益	9,581	19,908
経常利益	14,159	28,459	非支配株主に帰属する当期純利益	34	58
			親会社株主に帰属する当期純利益	9,547	19,849

連結損益計算書のPOINT ① 売上高・・・新型コロナウイルス検査関連試薬売上の大幅増加等によるものです。
② 国庫補助金、固定資産圧縮損・・・国庫補助金を活用した新型コロナウイルスワクチンに関する製造体制整備等にかかるものです。

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 2020年4月1日から 2021年3月31日まで	当連結会計年度 2021年4月1日から 2022年3月31日まで
当期純利益	9,581	19,908
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△974	3,751
退職給付に係る調整額	66	29
その他の包括利益合計	△907	3,781
包括利益	8,674	23,689
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	8,648	23,617
非支配株主に係る包括利益	25	71

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 2020年4月1日から 2021年3月31日まで	当連結会計年度 2021年4月1日から 2022年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,943	6,985
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,778	△7,071
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,103	△2,070
現金及び現金同等物に係る換算差額	△215	1,008
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	8,845	△1,148
現金及び現金同等物の期首残高	14,462	23,308
現金及び現金同等物の期末残高	23,308	22,160

会社概要 (2022年3月31日現在)

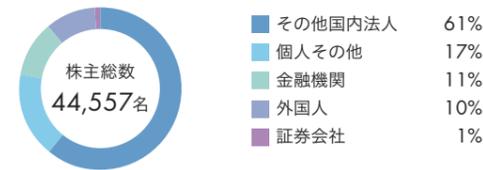
会社概要

商号	タカラバイオ株式会社 TAKARA BIO INC.
本店所在地	滋賀県草津市野路東七丁目4番38号 電話 077-565-6920(代表)・6970(IR担当)
設立年月日	2002年4月1日
資本金	149億6582万8496円
事業内容	試薬・機器などの製造・販売事業、 受託事業、遺伝子医療事業
従業員数	1,666名(タカラバイオグループ連結)

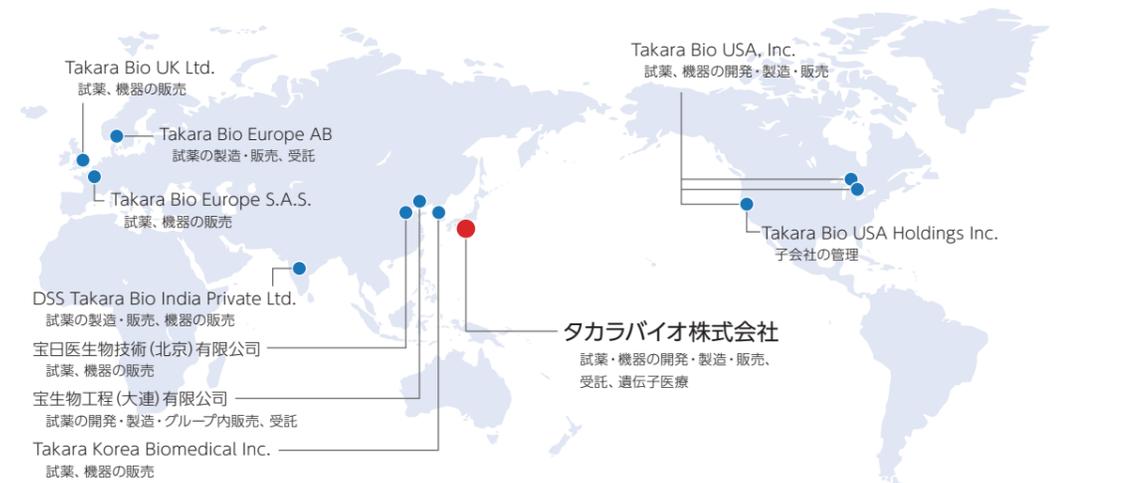
株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000 株
発行済株式総数	120,415,600 株
株主総数	44,557 名

所有者別株式分布状況



タカラバイオグループ会社



取締役および監査役

(2022年6月24日現在)

代表取締役社長	仲尾 功一
取締役	峰野 純一
取締役	浜岡 陽
取締役	宮村 毅
取締役	木村 正伸
取締役	木村 睦
取締役(社外取締役)	河島 伸子
取締役(社外取締役)	木村 和子
取締役(社外取締役)	松村 謙臣

監査役	
常勤監査役	喜多 昭彦
常勤監査役	玉置 雅英
監査役(社外監査役)	鎌田 邦彦
監査役(社外監査役)	姫岩 康雄
監査役(社外監査役)	牧川 方昭

ホームページでもさまざまな
情報を発信しています。
<https://www.takara-bio.co.jp>



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 ホームページアドレス https://www.takara-bio.co.jp
定時株主総会	毎年6月		
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。	株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
単元株式数	100株		
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場		
証券コード	4974		

株式に関するお問い合わせ先 以下の表をご覧ください。

	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先		0120-288-324(フリーダイヤル) 受付時間 平日9時～17時(土曜日、日曜日、祝祭日を除く)
マイナンバーのお届出に関する電話お問い合わせ先		0120-84-0178(フリーダイヤル) 受付時間 平日9時～17時(土曜日、日曜日、祝祭日を除く)
各種手続お取扱店 (住所変更、配当金受取方法の変更等)		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 株式会社みずほ銀行 本店および全国各支店	※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
ご注意	支払明細発行については、右欄の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座に記録されている株式は、証券市場での売買はできません。株式売買のためには、証券会社にお取引口座を開設し、みずほ信託銀行の特別口座から株式の振替手続が必要となります。

■単元未満株式を保有されている方へ

単元未満株式(100株未満株式)をお持ちの場合、会社に対して買取の請求を行うことができます。

【お問い合わせ先】証券会社の口座で管理されている単元未満株式 ⇒ 口座を開設されている証券会社

特別口座で管理されている単元未満株式 ⇒ みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

口座振込による配当金受取のご案内

	銀行口座で受領	証券口座で受領	
<p>「配当金振込指定書」</p> <p>をご提出いただくだけで、手続きが完了します。お手続きの詳細・お問い合わせは、お取引の証券会社へご連絡ください。(特別口座は除く)</p> <p>配当金のもらい忘れがなくなります</p> <p>銀行窓口に行く必要がありません</p>	<p>配当金のお受け取り方法は、右記の3つの方式からお選びいただけます。</p>	<p>配当金のお受け取り方法は、右記の3つの方式からお選びいただけます。</p>	
	<p>1 個別銘柄指定方式</p> <p>A社の配当金 → ○○銀行 B社の配当金 → △△銀行</p> <p>銘柄ごとに銀行等の口座を指定し、配当金をお受け取りいただける方式です。</p>	<p>2 登録配当金受領口座方式</p> <p>A社の配当金 → □□銀行 B社の配当金 → □□銀行</p> <p>すべての銘柄の配当金を、あらかじめご指定いただいた1つの銀行等の口座でお受け取りいただける方式です。</p>	<p>3 株式数比例配分方式</p> <p>A社の配当金 → 甲証券 B社の配当金 → 乙証券</p> <p>お取引の証券会社の証券口座で配当金をお受け取りいただける方式です。</p>
	<p>配当金のお受け取り方法は、右記の3つの方式からお選びいただけます。</p>	<p>配当金のお受け取り方法は、右記の3つの方式からお選びいただけます。</p>	

免責事項：本報告書に記載されている通期の業績見通しなど将来についての事項は、予期しない経済状況の変化などさまざまな要因の影響を受けるため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

タカラバイオ株式会社

〒525-0058 滋賀県草津市野路東七丁目4番38号
URL:https://www.takara-bio.co.jp

